

## 第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和2年12月11日(金)5校時  
児 童 湧別町立湧別小学校 6年1組 26名  
授業者 國 嶋 朝 生

### 1 単元名

『海の命』(光村図書6年)～人物の関係を捉え、登場人物の考え方や生き方について話し合おう～

### 2 児童の実態

今年度の国語科の授業では、2つの文学作品を通して以下の読みの力を重点に学習を進めてきた。

①人物の様子や行動を表す言葉、会話文などから、その人物のもの見方や考え方を読む力

【帰り道】

②語られる視点の違いに着目して人物像を読む力【帰り道】

③表現のしかたや言葉の使い方に着目して、作品の世界を捉える力【やまなし】

④作者の生き方や、他の作品の書かれ方と関連させて、内容を解釈する力【やまなし】

多くの児童が、読み方、捉え方、解釈の仕方は押さえることができたが、それらを活用して他の物語を読もうとする意識は低い。また、物語が伝えようとしていることは何か、というメッセージを読み取る力も低いことも課題である。

よって、本単元では、これまでに学習してきた読み方を再度確認しながら、物語のメッセージを捉え、自分の考えを語り合うことで、物語の読みを広げられる児童を育てたいと考えている。

### 3 単元の指導目標

◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)カ)

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思C(1)エ)

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思(1)オ)

○語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知(1)オ)

### 4 本単元と研究との関連

上記の指導目標を達成するために、本単元では『人物の関係を捉え、登場人物の考え方や生き方について話し合おう』という言語活動を設定した。具体的には、以下の手立てを考えた。

それは、言語活動の工夫である。『自分の考えを語り合う活動』を読み方の視点を変えて2回入れる。1回目は、登場人物の海に対する考え方を読み取ったことをもとに「共感できる考え方はどれか」という視点で語り合う。2回目は、周囲の人物が中心人物にどのような影響を与えたかを読み取ったことをもとに「中心人物の生き方から学んだこと」という視点で語り合う。読み取ったことに合わせて視点を変えて、同じ言語活動を繰り返すことで、効果的に指導目標を達成できると考えた。【③言語活動例の活用】【④効果的な繰り返し学習の工夫】

また、湧別図書館と連携して、関連図書を充実させることにも取り組む。これまで提案文を書く、ブックトークをする、パンフレットを作る学習で、図書館と連携して関連図書を選んで借りたり、まとめて教室に置いたりするようにした。本学級は、読書に抵抗感のある子が多く、歴史漫画などから朝読書の時間を始めて、読書の習慣を作ってきた背景がある。しかし、自分で選んで借りたり、教室に置いたりした関連図書には興味を持ち、手に取る子も見られた。今回も、「海の命」の作者である立松和平の作品など、人物の生き方が描かれた物語を教室に置きたいと考えている。【①読書指導の改善、充実】

本単元は、小学校段階における文学を読む学習のまとめにあたる。指導にあたっては、既習事項を生かして読むことを子どもたちにも意識させる。それにより新たな学びを理解するだけでなく、学習したことが生かされていることを実感させることで、「読むことのおもしろさ」がわかる子を育てたい。【②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫】

5 単元の授業過程（全8時間）

	時	学習活動	評価規準
一次	1	<p>◆登場人物の関係を捉え、中心人物の生き方について話し合うという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を立てる</li> <li>・言葉の意味調べ</li> </ul>	<p>○学習計画を立てるという視点で、物語の全体像を読み取り、学習計画を立てる話合いに参加している。</p>
	2	<p>◆なりきり質問で、登場人物について理解する。</p>	<p>○言葉や行動から、登場人物の人物像を読みとり、質問をしたり、答えたりすることができる。</p>
二次	3	<p>◆登場人物の海に対する考えを読みとり、共感できる考えをしている人は誰かを、心情描写・情景描写などから読みとる。</p>	<p>○登場人物の海に対する考えを読みとり、登場人物の中で共感できる生き方をしている人は誰か、自分の考えをまとめることができる。</p>
	4	<p>◆登場人物の中で共感できる生き方をしている人は誰かを交流する。</p>	<p>○物語を読んでまとめた考えを自分と他者のものを比べながら読み合い、自分の考えを広げることができる。</p>
	5 (本時)	<p>◆太一の生き方について、太一と父を対比して読んだり、周りの人物が太一にどのような影響を与えたかという視点で読んだりする。</p>	<p>○太一と父を対比させたり、周りの人物が太一にどのような影響を与えたかに着目したりして、太一の生き方を読みとることができる。</p>
三次	6	<p>◆太一の生き方から学んだことについて、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○太一の生き方に着目して読んだことを理解して、自分の考えをまとめることができる。</p>
	7	<p>◆太一の生き方から学んだことについての考えを交流する。</p>	<p>○物語を読んでまとめた考えを自分と他者のものを比べながら読み合い、自分の考えを広げることができる。</p>
	8	<p>◆本単元を振り返り、学習をまとめる。</p>	<p>○これまでに身に付けた読みの力を確認し、次に生かすことができる場面を考えている。</p>

## 6 本時の学習

### (1) 目標

- ・ 太一と父を対比させたり、周りの人物が太一にどのような影響を与えたかに着目したりして、太一の生き方を読みとることができる。

### (2) 本時の展開 (5/8)

児童の学習活動	研究内容との関連	教師の支援・評価
1 前時を振り返り、登場人物の生き方を読み取る時には心情描写・情景描写を関連付けて読んだことを復習する。  2 課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容とこれまでに学んできた読み方の系統性を児童に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共感できる生き方を交流したことを振り返らせ、4人それぞれに海に対する考え方があり、生き方があることを確認する。</li> <li>・ 「太一とおとうの違いは何だろう？」と問うことで課題を引き出す。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">太一とおとうの生き方のちがいは何だろう？</div>		
3 生き方のちがいを周囲の人物からの影響などと関連付けて、理由をノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物について読み取ってきたことに触れ、周囲の人物の影響と関連付けて考えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちの実態に応じて、小グループの編成の人数を変える。(話が進まないペアなどがいた場合、ペアを合わせて、4人グループにするなどする。)</li> </ul>
4 小グループ交流  5 全体交流  6 まとめ	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p><b>【評価】</b></p> <p>太一と父の生き方のちがいを、周囲の人物からの影響などと関連付けてノートにまとめている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体交流の中で、太一はおとうにあこがれていたこと、でも瀬の主を打たなかったと言う心情と行動のズレを引き出し、問い返す。</li> <li>・ 父の他にも影響を与えた人がいるかを問い、周囲の人物の影響をより深く関連づける。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>おとうは夢を追い続ける生き方をしていたが、太一は人の思いに耳を傾けて生きていくことで、村一番の漁師であり続けた。</p> </div>		
7 本時で学んだことをまとめる。  8 次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語活動を示し、自分の考えをもつことを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生き方を比べて読むことで、より深く中心人物の生き方を読み取ることができることを確認する。</li> </ul>

7 板書計画

まとめ	
太一	おとう
課題 太一とおとうの生き方のちがいは何だろうか？	太一 おとう
海に対する考え方	海の命 立松和平
十二月十一日	